

勝負の秋 その3

次から次へと勝負の秋です。部活動の県大会、東北大会、全国大会が目白押しです。9月13日から15日までは、陸上競技、また、14日から16日までは野球、27日が合唱の東北大会、10月の20日が吹奏楽の全国大会、その合間を縫って、サッカーの選手権、ラグビーの選手権の県大会が始まり、テニスやバスケやバレーが続きます。いわば磐城高校の文武両道の成果をかけた勝負でもあるのです。

文武両道とは、昨年から何度もここに書かせていただきましたが、能力のインプットとアウトプットを併用することにあります。自分の中に様々な能力を見出し、その力を研鑽し、具体的に外側に放出する場を持つことによって、その繰り返しによって考察力や思考力や表現力を高めるルートづくりをしていくことだと考えます。

部活動であったり、委員会活動であったり、様々な場所で失敗したり、後悔したりする経験を次なる場所のシミュレーションとして生かしていく連続的な経験を積み上げることにより、他者との協働の方法や主体的な態度、深く考える力、対話的な能力を養成できるものであると考えます。

したがって、その試みの経験が、やがて来る3年生になっての、それぞれの全国大会である受験勉強に生かしていくことができるのだと考えております。

もっとも、大学に入学すると、毎日のゼミの中での主体的なコミュニケーションや、日頃の様々な活動における態度や会話において、試される場面は数多くあり、地方から出た公立高校の出身者にとって、越えねばならぬヒエラルヒーが存在することは事実であると思います。

どれだけ人と話ができるか、知り合いをたくさん持っているか、自然と共生した経験値や体験の幅があるか、いかに古典的な読書を重ねているか、という何でもない普通の力が、実は大学生にとってはかけがいのない力になります。

その特徴を生かして、多くの人たちと出会い、様々なネットワークで活躍することによって、社会で生きることができるすべを身に着けると考えます。

磐城高校において養成されるべき力は、人との連携をつなげる力であり、閉塞する場を打開する力にあります。そして、人をリスペクトすることで、謙虚に知的に生きるすべを共有することでもあります。

やがて来る大きな変革の時代を切り抜ける団結力や、笑顔で人とつながれる力を身に着けていただきたい。それが、校是である『知性と責任』の本質です。

